

『父と暮らせば』を観て

6月29日に埼玉会館小ホールで上映された井上ひさし原作、『父と暮らせば』を観た。誰もが知る70年前の広島に投下された原子爆弾は多くの住民を犠牲にした。父は死に娘は生き残ることが出来た、父と娘の物語である。

原爆投下から3年後、娘・美津江は図書館に勤めながらひっそりと暮らしていた処に原爆の資料を集めていた青年・木下に会う。だんだんに惹かれるようになったが恋愛までには至らない。そのとき幽霊となって現れたのが父・竹造である。娘・美津江は3歳のとき母親と死別して、その後17年間を父親が育てた。娘が20歳のとき原爆に遭った。原爆で父親、親友が犠牲

になり、自分だけが生き残って、「なぜ生きているのか」と負い目に悩まされて、「自分だけ幸せになっていいのか」と悩んでしまう。そのとき、青年・木下が現れた。その青年にほのかな恋心を抱くがいつこうに進展しない。娘のじれったい様子を見て父親が励まして、娘の後押しをして、恋の糸口を見出す。

終幕になっても観客の誰ひとりとして立たず、最後までスクリーンに釘づけになったことはいかに感動が大きかったことか。

同じ井上ひさし原作の長崎被爆者を扱った『母と暮らせば』が年末に公開されるので是非とも観たいものだ。(元町・幹)



- ◆8月9日(日) 埼玉県知事選挙投票日**
◆8月22日(土) 14時~ コラボ
 浦和区後援会暑気払い
◆9月4日(金) 18時半~ 大宮駅西口
 9・4オール埼玉総行動
 ゲストスピーチ：鳥越俊太郎(ジャーナリスト) / 浜矩子(同志社大学大学院教授)
駅頭宣伝
 3日(月) 与野駅東口：18時~19時
 6日(木) 浦和駅東口：7時~8時20分
 武蔵浦和駅東口：17時半~18時10分
 南浦和駅西口：19時20分~20時
 7日(金) 浦和駅西口：18時~19時
 8日(土) 浦和駅西口：7時~8時20分
 大宮駅東西口：17時半~20時
 10日(月) 北浦和駅西口：7時~8時
 14日(金) 21日(金) 28日(金)
 北浦和駅東口：7時~8時
 17日(月) 浦和駅西口：7時~8時
 24日(月) 浦和駅東口：7時~8時

耳より情報



うらわだいき
 丁寧な説明
 戦争にならないように
 戦争に参加する法案です
 ウーン、分らん!
 安倍首相
 国民
 (東口・さぶ老)

狂歌
 戦争を
 火事に例える
 おろかさよ
 ますます不信
 民はダメせず
 (岸町・佐久間純)

川柳
 平和の党 聞いてあきれれる公明党
 官邸前 怒りの声止むことなし
 戦争へ わが子はやらぬママの会
 (岸町・だん吉)

命綱 株と詐欺師の糞じゃない
 戦争は 平和を唱えてやって来る
 言論の 弾圧言論で百ただき
 おこれる党 世論運動で懲らしめよう
 風吹けば 桶屋儲かる危機事態
 骨太で 私や骨皮筋ア門
 (東口・さぶ老)

《編集後記》
 2011年7月にスタートした「うらわ宿」が、8月で50号となった。4年2か月間一度も休むことなく発行し続け、「出し続ける事が大事」と励まされながら節目の50号を発行できることは素直に嬉しい。後援会「ニュース」が「うらわ宿」のタイトルになったのは13年6月のNo.24からで、題字は命名した野々垣会長の手書き。それまで一人編集(石川)だったものが14年5月No.35からは強力な3人(野々垣・古澤・関口)が委員に加わり4人体制となった。毎月の編集会議でテーマ、記事などの紙面作りを討議し、体裁も内容もグレードアップした。鳥海さん当選後の15年5月No.47からさらに二人(針谷、島)が加わり、より工夫した紙面作りになってきた。『うらわ宿』50号と時を同じくする戦後70年の8月。衆院での強行採決を経て、参院での戦争法案論議は論議が進展すればするほどその違憲性が露呈し、世論無視の安倍首相が饒舌にならばなるほどその欺瞞性が露わになる。歴史の分水嶺ともいえるこの夏、稀代の悪法を絶対に立法化させるわけにはいかない。この「うらわ宿」が浦和区の皆さんの連帯と活動の活性化に大きな貢献をしてきたと自負しているが、戦後70年目が戦前のスタートとならないよう後援会「ニュース」が「うらわ宿」としての役割を自覚していきたい。(きよた)

うらわ宿

日本共産党浦和区後援会ニュース
 2015年8月号・No.50
 浦和区北浦和3-14-16
 TEL/FAX 048-833-4515
 *****(部内資料)****

鉄腕アトムの声優 清水マリさんにインタビュー

安保法制に反対する与党議員は止めてよ!!!

戦後70年を迎える8月の「うらわ宿」には、あの鉄腕アトムの声で全国に知られている、声優で演劇家の清水マリさん(浦和区前地在住)に登場していただきました。先月の7月10日に「鉄腕アトムと共に生きて」(さきたま出版会発行)という自叙伝を出版したばかりです。お父様が俳優の故清水元さん、お兄さんが元NHKプロデューサーの清水満さん、御子息も社会派演劇でご活躍の劇団「花鳥風月」主宰者山内大典さん、ご主人は3年前他界されま

したが桐朋大学演劇科の教授という演劇一家です。そうした清水マリさんに、終戦時の記憶、安保法制などについて語っていただきました。

<父は一貫して戦争反対でした>

Q. いきなりで恐縮ですが、戦時中や終戦時のお話をお願いします。
 A. 父は最初から戦争に反対でした。身体に子どものころからの大きなやけどがあって徴兵は免れたようですが築地小劇場などで演劇をやっていたものですから慰問隊に入って全国

を回っていただきましたので、殆ど家にはいません。帰ってくるとこの戦争はおかしいとか、国の在り方がおかしいとか常々言っていました。私にはまだ父の言っていることがよくわかりませんが、兄も私も軍国少年少女ですから、子ども心に反戦思想の父は非国民で危ないと思っていたものです。広島、長崎に原爆が投下され、父がこれで戦争は終わると言っていたのを覚えています。(2面につづく)



「戦争法案」強行採決に満身の怒りで抗議を!

安倍晋三内閣と自民・公明の与党が7月15日、「安保法制特別委員会」と、翌16日、衆院本会議場で「戦争法案」を強行採決しました。「100時間を超える審議時間を確保し、問題点は出尽くした」というのが採決の理由です。

しかし、この間の国会論戦で明らかになったことは、法案が「憲法違反」だということだけで、80%を超える国民が「政府の説明不足」を指摘し、60%以上の国民が、反対を表明しています。何よりも、多くの憲法学者、文

倍内閣打倒」の声に変わってきました。日本共産党は、強行採決という民主主義否定、立憲主義を無視する安倍内閣に満身の怒りをもって抗議します。

「戦争法案」は、7月27日から参議院で審議が始まります。一部マスコミなどは、衆院通過をもって「戦争法案成立の可能性が高まった」といいますが、たかひはこれからです。安倍内閣が参院で採決しようとするれば、再び強行採決をすることになり、60日ルールを悪用すれば再び衆院で強行採決することになります。国民は、2度にわたるこのような暴挙は決して許しません。日本共産党は、参議院での徹底審議を行って、なお一層「戦争法案」の危険性と矛盾点を国民の前に明らかにさせてゆきます。

◆◆とりうみ敏行の活動報告◆◆

すべての各地方弁護士会が違憲、廃案を求めていることから、「戦争法案」は、法理論的にも破たんしています。採決強行後は、安倍内閣の支持率と不支持率が逆転し、支持35%、不支持52%となりました。もはや国民は、特に若い人たちの間で、「安

同時に日本中では、「TPP反対」「原発再稼働反対」「労働法制改悪反対」など、個別の問題での運動が大きく広がっています。日本共産党は、こうした運動と結んで、「安倍内閣打倒」の国民的運動につなげてゆきます。そのためにも、参議院での審議が始まる中たたかわれる県知事選挙で、「民主県政の会」の柴田やすひこ候補を必ず県知事に押し上げ、全国5番目の人口を持つ埼玉県から「安倍政治許さない」「戦争法案ノー」の審判を下しましょう。

私も全力で頑張ります。連日猛暑が続いています。おからだに気を付けて一緒に頑張りましょう。(とりうみ敏行)



瀬ヶ崎での市議会報告会

母は戦争について父ほどはっきりはしてなかったと思いますが、とにかく食糧がなくて困る、と言っていたのを覚えています。父がたまに帰ってきて、カンヌ、カンパン、わかめのお菓子など貯めておいてもち帰ってくると私たちは喜んで食べました。家族思いだったんですね。

このあたりは低地で、1メートル位掘ると水がでるものですから、防空壕は下にスノコのようなものがおいてあるひどいものでした。東京大空襲の時は空が異様に赤くなっていたのを覚えています。

<60年安保闘争は青春そのもの>

Q. そして演劇人を目指していくことになるのですがマリ先生ご自身の反戦活動や政治との関わりはどのようだったのでしょうか。

A. 父の影響で自然に演劇をやるようになりましたが、反戦意識も早いうちから父の影響で身につけていたと思います。浦和西高ですと演劇部をやっていてその後俳優座養成所に入り、その後劇団新人会に所属しました。当時の新劇は殆ど左翼ですから、政治を批判するような演劇が多く、田中千禾夫先生の「マリアの首」などをやりました。60年安保の時は、劇団から真っ直ぐ国会デモに行くという日々を過ごしました。竹竿もって銀座でフランスデモも行きました。今も新劇人会議が頑張っていますが、当時も新劇人会議は活発で、デモには、ハンカチ、ちり紙、小銭入れ以外は持ってこないようにという指令も出ました。身分がばれないようにです。右翼が、釘つきの角材で襲いかかってきました。俳優にとって顔を傷つけられるのは大変なことですから恐ろしいことでした。

6月15日、樺美智子さんが亡くなった時は、泣き続けました。安倍さんのお爺さんの岸さんが、デモを見て失禁したという噂が流れましたが、バカバカしい話



ですが皆で大笑いした記憶があります。もちろん真偽は定かではありませんが。

<明智はまだか!!>

Q. 現在の安保法制の動きをどうお考えですか。

A. 自民党には安倍さんの首に鈴をつける人がいないのかと思いますね。数では押し切られてしまいますから、内部で反乱する人がいないと勝てません。自民党には300人も議員がいて、誰も異を唱える人がいないのかと不思議でしょうがありません。毎日明智光秀はいないのか、と皆に言っています。安保法制は歴史的事件になると思うんですね。こういう時何か起きると思うのね。本能寺の変のような。とにかく一人一人の議員さんに聞いてみたいですね。あなたがたは、それでいいんですか、どうして政治家になったのですかと。ただ、衆院で強行採決した時にさすがに「バンザーイ」という光景はなかったですね。彼らにもいくらか後ろめたい気持ちがあるのではないかとと思うんですけど。

<手塚先生からは地球人として生きていく考え方を学びました>

Q. 鉄腕アトム、手塚治虫先生と共に歩まれたと思いますが、もっともお感じになられていることはどんなことでしょうか。

A. 手塚先生の「鉄腕アトム」によって日本のロボット科学は世界でもっとも進んでいると思います。すでに殆どのサービスをロボットが対応するホテルまであるようです。またロボットだけでなく、高速道路や、ビルの景観の絵が、建築などに大きな影響を与えていると言われています。そして何より、人類に対しておろかな戦争やさまざまな自然災害に警鐘を鳴らしていることです。私が影響を受けたところはまさにそういうところですね。どの国も自分の軍隊をもって争いに備えるということではなく、地球人として、おろかな戦争はやめて、この美しい地球を守るためにどうしていくかという考え方に切り替えていって欲しいと思います。



<朗読の会にも反戦の思想は生きて>

Q. 5月に小沢重雄さんの追悼公演をおやりになられましたが、小沢さんとはどういうおつきあいだったのですか。

A. 鉄腕アトムの声を35年やって次はどうしようかと考えていた時、「浦和むかしむかしの会」の創設者で、埼玉県の民話の掘り起こしや朗読劇をやっていた小沢さんに誘われました。小沢さんと二人での朗読は私にとっては新たな世界でしたので大変感謝しています。その小沢さんが2008年3月になくなられて、ようやく8年かけて追悼公演を開くことができました。小沢さんも反戦思想の持ち主で、民話などを通じて随分そうした話をしました。何も知らない子どもたちが戦争に駆り出されるのは許せないと常々話しておられましたね。

Q. 最後にこれからおやりになりたいことをお願いします。

A. そうですね。今年是小沢重雄さんの追悼公演をやって、私なりに手塚先生へのレクイエムもこめて、自叙伝をつくりました。いまはすべて使い果たした感じですが、生きている限り何かやらないといけないと思っています。

編集部：現在も多方面で活躍する清水マリさん。終始あのアトムの声で語るテンポは早くドラマ風なのです。流石長年演劇人としてのキャリアとありました。浦和を愛し、自然体であることが印象的でした。ご本人に代わり下記PRさせていただきます。

◆「鉄腕アトムと共に生きて」は須原屋等書店で絶賛発売中です。(1,800円+税)

◆劇団「花鳥風月」次回公演「零のナンバー」は、池袋西口小劇場「G EKIBA」で。8月20日～23日。

7・26 国会包囲行動に 2万5千人

7月26日の日曜日、午後2時からの国会包囲行動に参加した。衆議院での強行採決にどうしても抗議の声を上げたいという気持ちで出かけた。いつもは、地下鉄永田町駅で降りるが、この日は、国会議事堂前駅で降りた。一部出口が閉鎖され、指示された出口を上がると、連なる人の波とコールの声。“強行採決徹底糾弾！、安倍政権は今すぐ退陣！、今すぐ退陣、今すぐ退陣、退陣、退陣、退陣！” ラップ調のコールに身体が躍る。国会議事堂正面まで、主催者のスピーチを聞きながら、国会を包囲する人達に呼応しながら前進、スピーカーは国会を取り巻く道路の街路樹に約30メートル毎に設置され、まさに心一つに声を上げる国会包囲行動に相應しい取組み。猛暑日で、大変暑かったが、地方から上京して



きた人、子供連れのご夫婦、年配の人、若い人、グループで、個人で、多くの方が日本の未来に危惧を持ち、国権の最高機関である国会周辺に集まり、「日本を戦争する国にするな」「9条守れ」と抗議の声を上げた。私も思い切り叫んだ。たたかいは参議院に移りましたが、何としても廃案への元気をもらい帰路に着いた。自民党の谷垣幹事長が国会を取り巻く反対の声について、「かすかに気配を感じていないわけではない」とうそぶいた。より大きな国会包囲行動で吹っ飛ばしてやりたい。(領家・針谷)

浦和区の2015年原水爆禁止国民平和大行進

7月18日(土)さいたま市の各区分で「平和大行進」が行われました。私は、実は初参加だったのです。午前中、埼玉県庁前の1000人超の参加者を集めた女性のレッドアクションに参加し、浦和区の出発地となる北浦和駅へ向かいました。この日はもう一つ大きなアクションが控えていました。九条の会の澤地久枝さんが呼びかけた「アベ政治を許さない」のプラカードを午後1時に



全国で一斉に掲げる行動です。この行動と平和大行進は似ていませんか？日本のあちこちで、同じ行動をしている仲間たちがいる、という心強さ。核兵器廃絶という願いを込めてみんなが歩く。北浦和駅西口で、とりうみさんの平和への願いを込めた訴えとともに、午後1時、行進に参加する浦和区の仲間たちと、一斉に「アベ政治を許さない」を掲げました。そして、道行く人々や車に手を振りながら、浦和橋→中山道→パインズ交差点→きれいに舗装された市役所通りを通過してゴールの市役所へ。市役所では「平和都市宣言をしたさいたま市として、平和大行進に敬意



を表する」との市長からのメッセージを受け取りました。武力によらない平和をさいたま市も堂々とまっすぐに歩いてほしいと思います(・・・市長も参加すればいいのに)。(北浦和・神田実由紀)

「戦争ゆるさない・女性のレッドアクション」に参加しました

7月18日、戦争したい安倍政権に、赤いものを身につけた女性達がレッドカードを突きつける「戦争ゆるさない・女性のレッドアクション」に参加した。

かつてアイスランドの女性達が赤いストッキングをはいて地位向上を訴えたことに習って始まったこのアクション、さいたま市で行われるのは2回目。前回の400名から1000名に増えた参加者が、思い思いのメッセージを書いたプラカードを掲げ、埼玉県庁前から浦和駅までの道をパレードした。

駅到着後は、ビラ配布や、安倍政治に賛成or反対を問うシール投票も。その場で感じたのが、道行く人の反



応の変化だった。初めてビラを配った前は、ビラを受け取ってくれる人も少なく、逆に「今度こそ、憲法は変わるから。こんなことしても無駄」と言われたことも。ところが今回は中学生男子の団体が「政府の行為によって再び戦争の惨禍を起こすな」のプラカードに目を留め、シール投票に反対票を投じてくれた!

当方、50代女子。戦争がなく、自由にもものが言える時代を生きて来た。それが今、不誠実なごまかしで、なし崩しに壊されようとしているのがとても怖い。だから、私も声をあげる。(大原・和田ゆり子)